【別紙】　令和8年度　学校自己評価重点目標シート　（川口市立元郷中学校）

（Ａ４判横）

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	自主的に取り組む生徒　共に学び、共に伸びる生徒　思いやりのある生徒　健康でたくましい生徒
目指す学校像	幸せを創造し、明日も来たくなる学校

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

出席者	
学校関係者（教職員を除く）	名
事務局（教職員）	名

学校自己評価						学校関係者評価
領域	年度目標			年度評価（令和　年　月　日現在）		※実施日　令和　年　月　日
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
組織運営	生徒数・学級数減に伴う職員数減により、学校そのものに課せられた責務を果たすためのマンパワーが不足している。そのため、職員相互が各自のワークライフバランスを尊重しながら、補完性のある組織をつくることが重要である。タイムパフォーマンスを意識した業務効率性・生産性の向上による在校時間の更なる縮減や、物理的にそれが可能となる校内ＤＸの推進により業務改善と負担軽減を図ることが課題である。	○教職員個々の強みを生かしながら、補完性のあるフットワークとネットワークの良い組織をつくる。	○人事評価に係る管理職との当初面談における今年度の目標の明確化 ○情報・決裁ルートのスムーズ化	○			・
		□在校時間３６０時間/年超を前年比－５％にする。（令和７年度38.7%）	□月在校時間の把握と緊密な意思疎通による機能性の向上 □業務の優先度と見通しをもった組織的対応による指導	□			・
		◇各分掌や学年からボトムアップによる学校運営への参画意識向上と物理的な教員支援を行う。	◇物心ともに負担軽減を図ることのできる支援と環境整備	◇			・
教育課程	令和の日本型教育を進めるためには、何よりも授業改善と学習に対する本校生徒のアレルギーを改善することが課題である。単なる知識を得るだけでなく、社会で求められる多面的で実践的な力の育成と、学び方を学ぶ「知の財産」づくりに取り組む必要がある。	○生徒に身に付けさせたい力を踏まえた学習活動の工夫と教師の授業力向上に取り組む。	○アクションリサーチ結果を分析・活用し、本校生徒にとって効果的な授業改善の方法を研究する。 ○校区小学校と共同研修を実施し、９年間を見通した学力向上に取り組む。	○			・
		□生徒の主体的な学びにつながる学習を工夫し、継続して取り組ませる。	□学習アプリを自学習だけでなく授業や課題配信にも活用し、短時間でも質の高い学びを蓄積させる。	□			・
		◇生きて働く「知の財産」となるべく、対話的な学びとアウトプットについて研究を推進する。	◇学習形態や学び方を授業で工夫し、教科や単元の特性に合わせ、その後の学びに汎用性のある学習について工夫改善する。	◇			・
開かれた学校づくり	令和の日本型教育及び教職員の働き方改革への理解を促進する情報発信が重要である。幼⇔中、小⇔中の交流と地域資源の効果的活用により、教育活動を充実させていくことが課題である。	○学校の状況への理解を図るため、学校情報を積極的に発信する。	○定期的なHPの更新及び頻度の充実に取り組み改善する。毎週、週予定を公開する。保護者あての連絡や各種帳りの発行はアプリにて行う。 ○保護者会等を活用し、丁寧な情報発信と説明責任を果たす。	○			・
		□中学校区における、幼稚園・小学校・中学校の連携活動を推進する。	□幼児・児童・生徒による交流の機会を創出する。 □学校保健委員会等の行事を活用し、地域の教育力を向上させる。	□			・
		◇地域の資源を効果的に活用し、幅広い教育活動を推進する。	◇講演や授業での地域人材の活用に取り組む。 ◇外部機関との連携により生徒指導や教育相談体制を充実させる。 ◇夢わーくでの体験事業を充実させる。	◇			・
教職員の資質向上	経験年数の浅い教員、未就学児を養育している教員など、キャリアやワークライフバランスを考慮、尊重して学校経営を行うことが重要である。互いにリスペクトし合いながら、補完性のある教員集団と個々の資質能力の向上を同時に図ることが課題である。	○教職員各自のキャリア、ワークライフバランスに配慮した資質、能力の向上に取り組む。	○キャリアに応じたライフプランの作成を、短・中・長期的な人材育成及び資質・能力の向上を明確にする。 ○分掌業務を複数で担い、継承できるようにする。	○			・
		□ＧＩＧＡスクール構想の推進により指導力を向上させる	□授業改善のためタブレットを十分に活用し、教材開発や指導力向上につなげる。	□			・
		◇タイムパフォーマンスを意識し、優先順位を吟味して業務を処理する技術を身に付ける。	◇業務管理をＤＸ環境整備により、作業区立を改選する。 ◇個人のこだわりから脱却し、全体を見通して組織的に対応する。	◇			・
施設・設備等の管理	老朽化による修繕個所が非常に多いが、配当予算だけでは賄うことができないことが課題である。修繕の希望が通りにくい部分もあるため、学校でできる対応は優先順位をつけ、短・中・長期的な修繕計画により、教育活動を止めないための教育環境の維持をすることが課題である。	○学校における施設・設備事故ゼロを達成する。	○目視および叩打等による定期的な安全点検を確実に行う。 ○点検担当・安全担当・管理職の連絡系統を明確にし、組織的にスムーズに対応する。	○			・
		□教育活動を止めない長期的な修繕計画の下、着実に修繕を実行する。	□優先順位をつけ、見通しを見って配当予算を執行する。 □行政と連絡を密にし、必要に応じて同一歩調で安全を担保できるよう処置する。	□			・
		◇学校環境の維持と丁寧な使用を徹底する。	◇清掃活動や日々の教育活動を通して、限られた学校環境を丁寧に使い、耐用度を伸ばせるようにする。	◇			・